



豊かな自然にひと・もの・まちが輝く健康都市 網走

市議会だより

第110号
(令和5年2月)

発行／網走市議会 編集／網走市議会広報委員会

【もくじ】

トピックス	2～3 P
一般質問	4～5 P
重油漏れ事故について	6 P
議決結果表	7 P
行政視察報告	8 P

市道清明線(明治の300階段)

市民のみなさまの傍聴を
お待ちしております。

次の定例会は3月2日(木)
～3月22日(水)開催予定です。

※詳細につきましては、議会事務局へ
お問い合わせください。

■問い合わせ

Tel 44-6111
(内線281・282)



中継ホームページはこちらから

UD FONT

本紙は、見やすさや読みやすさを配慮したユニバーサルフォントを
採用しています。

令和2年1月 小林 太郎氏撮影

12月定例会のトピックス

第4回定例会概要

第4回定例会が12月6日から15日までの10日間開催されました。畜産・酪農家への支援事業や新型コロナウイルス感染症対策などの歳出を含む令和4年度一般会計補正予算と国民健康保険特別会計補正予算案を審議可決しました。また、追加議案として、人件費の減額、最終処分場の修繕費の歳出を含む総額27.2億8808万円とする令和4年度一般会計補正予算案とその他特別会計補正予算案を審議可決しました。

市長挨拶

市長選挙後初めての議会にあたり、市長から挨拶がありました。3期目の4年間で新庁舎の建設、どこバスの運行、クリニックの開設、特別養護老人ホームの増床、

病後児保育、新型コロナウイルスの対応、網走刑務所の資源活用、中学生までの医療費の無料化、網走電力の設立、郊外地区の光ファイバー整備、ビーチアビエーションの運行など様々な課題に尽力してきた。引き続き網走の子どものための未来のために市民の皆さんや関係団体と意識の共有を図りながら、「ひと・もの・まちが輝き続ける健康で元気な網走」のまちづくりを続けていく。市議会の皆さんのご指導ご協力をいただけるようお願いすると挨拶がありました。

総務経済委員会

総務経済委員会では、地域おこし協力隊起業支援100万円、豆・馬鈴しよの機械導入への支援965万円、飼料

価格高騰により経営が圧迫されている農業者への支援756万円、シジミ種苗施設への補助金660万円、住環境改善補助金600万円の追加、消防組合人件費などの増額193万円、人事院勧告による人件費の減額6022万円などの補正予算が審査されました。

条例改正では、水道給水管を土地所有者へ通知することで埋設が可能になる条例改正案、特定非営利活動法人を



融資対象とする中小企業振興条例改正案、網走市職員給与条例等の一部を改正する条例改正案が審査されました。

請願では「網走市長選挙に関して網走市及び水谷市長の公式見解を求める請願」については全会一致とならず、継続審査となりました。

文教民生委員会

文教民生委員会では、新型コロナウイルス感染症対策700万円、小中学校へのコロナ感染症対策217万円、最終処分場破袋機の修繕費300万円などの補正予算が審査されました。

条例改正では個人番号カードによる印鑑登録証明書をコンビニで交付できる条例改正が審査されました。

請願では「学校給食費の無償化を求める請願」について審査をし、

全会一致で採択となりました。

最終日の本会議において、網走市職員給与条例等の一部を改正する条例制定について、日本共産党議員団が、議員については人事院勧告の対象でなく、市民の納得が得られないことを理由に反対討論しました。

(7ページ参照)



起立による採決

トピックス

第6回臨時会概要

この臨時会は、令和4年度一般会計補正予算、財産の取得の議案2件を審議するため10月11日に開催されました。

一般会計では5億8886万円を増額し、補正後の額を271億5790万円とするもので、それぞれの所管委員会に付託され審査されました。

具体的には、総務経済委員会所管では、物価高騰対策の生活支援と消費喚起のために地域応援商品券（1万円／セット）を一般世帯1セット、子育て世帯2セットを配付するもので、事業費として2億1641万円が上程されました。

文教民生委員会所管では、国の支援事業と



導入した電子黒板

して住民税非課税世帯と家計急変世帯への給付事業費（5万円／世帯）として2億4812万円、令和3・4年度実施の子育て世帯臨時特別給付金給付事業の実績確定による国への返還金917万円、新型コロナウイルススワクチン接種事業費として1億1316万円、さらには網走小学校プラスバンド全国



大会出場に伴う補助金199万円が上程されました。それぞれの所管委員会で審査し、本会議で可決しました。

11月22日には第7回臨時会が開催され一般会計補正予算1億2341万円の追加補正予算と条例の一部改正が上程されました。

総務経済委員会では、公園遊具施設の点検により、けがをする恐れのある遊具が確認されたため安全対策として撤去・修繕の公園施設整備費7700万円を追加補正することに決定しました。また、依然として厳しい社会情勢に鑑み、市長・副市長・教育長の給料を減額する「網走市常勤の特別職に属する職員の給与に関する条例の特例に関する条例の一部改正」を審査しました。

文教民生委員会では、国際情勢等を背景とした原油価格高騰の影響で

第7回臨時会概要

灯油が高価格で推移している、低所得世帯に対し1世帯当たり1万円の暖房用燃料券交付に社会福祉総務費4018万円、学校遊具に關しても公園遊具同様に安全対策のため撤去・修繕の小学校施設整備費624万円の追加補正予算を審査しました。

その後、本会議で可決しました。



使用禁止の公園遊具

一般質問から

芸術文化合宿誘致事業
の取組みについて

志 誠 会 古 田 純 也



問)令和4年度の合宿誘致状況は。

答)途中段階ではありますが、11月までに3団体を
受入れ延べ242名を誘致している。問)現段階で市が考える芸術文化合宿誘致事業の
方向感について、認識を伺います。答)これまで取り組んでいるスポーツ合宿誘致に加え、
芸術文化合宿の誘致に力を入れることで、年間を
通じての交流人口の拡大を図り、市民との交流を
通じて、芸術文化の更なる向上につなげて行きたいと
考えております。問)2023インターハイボート競技について開催地
として大会成功に向けての意気込みをお聞かせ
下さい。答)関係機関、団体の皆様のお力添えを賜えるように
お願いするとともに、網走での開催が選手、関係者、
観客の訪問による交流人口拡大などのスポーツの
振興に大きく寄与するよう、大会の開催準備と運営に
万全を期していきたいと考えております。紙おむつゴミの無料収集
について

公明クラブ 澤 谷 淳 子

問)近隣自治体は子育て・高齢者・障がい者の支援
策として家庭から出る紙おむつゴミは指定ゴミ袋
対象外にして無料収集している。また、指定ゴミ袋
の出産時2～3年分配付の子育て支援策は、多く
の自治体を取り入れている。当市も子育て支援を
重視する今、紙おむつゴミは大人用も含めて無料
収集にしては。答)当市の紙おむつゴミは有料でH29年4月より1ℓ
あたり2円から1.6円に軽減した経過がある。近隣
自治体の子育て支援で無料収集にしていることは
承知している。様々なニーズがある中で紙おむつ用
ゴミ袋の支給から新生児子育て応援祝金5万円に
移行し紙おむつのみならず子育て支援の施策を拡充
してきた。大人用紙おむつの支援も必要な施策である
と認識しているので、今後、分別方法が変更となる
際にはゴミの処分の在り方も含め市民の皆様の意見
を取り入れながら排出方法についても併せて検討
していく。最終処分場について
会計年度職員について

日本共産党議員団 村 椿 敏 章

問)最終処分場があと何年もつかについて、市は
4年、委託業者は2年3ヶ月。現場を熟知した委託
業者の意見を取り入れるべきでは。答)国のマニュアルに記載された方法に基づき測量
し、残余量を求めている。違いについて、委託業者と
話し合いを続けている。問)年数の違いはあっても危機的なのは変わら
ない。最終処分場を管理するのは市の責任であり、
最悪のことも考えるべき。災害などが起きたら、
ゴミがあふれることも想定できるが、どうするのか。

答)近隣自治体に協力を求めることになる。

問)受け入れるかも分からない。次期処分場を早急
につくるべきだ。

答)次期処分場の構想に着手している。

問)会計年度任用職員制度が始まって3年となる。
来年度の職員数が減ることはいないか。働き続け
られる様に制度を見直しすべき。

答)職場聞き取りでは、変化はない。

地域公共交通、防災、
緊急通報システム

公明クラブ 永 本 浩 子



問)どこバスの利用状況と目標達成状況は。

答)本年4～11月の8ヶ月で25,025人、一日平均102人。
年間目標4,000人は大幅に突破した。

問)料金値下げや高齢者等への支援の検討を。

答)値下げは難しいが、本格運行でも定期券や回数
券での割引を継続。非課税世帯、後期高齢者等への
支援は関係部署と協議していく。問)高校生の部活後も利用出来る様に運行時間の
延長、停留所の拡大、クーポン券等も。答)時間延長の声は承知しているが当面は現行通り。
停留所の拡大は柔軟に対応。クーポン券等の取組は
網走バスと協議研究したい。

問)スクールバス、患者送迎バスへの混乗を。

答)効率的な運用を図るべく、郊外の公共交通は地域
とも話し合いを重ねていきたい。

問)新しい防災体験・ARゴーグルの導入を。

答)導入に向けて検討していく。

問)緊急通報システムに携帯型も導入すべき。

答)導入を視野にシステム管理業者と協議。

一般質問から

まちづくり課題は山積
市政の信頼回復を

志誠会 近藤 憲治



問) 市役所組織内のパワハラの有無を伺う。

答) 上司との関係に悩み職員課に相談に来るケースが少ないながらも。会計年度任用職員に調査を行ったところ、不快な思いをした経験のある方が一定数いることを確認した。

問) 「市民、議会との対話とコミュニケーションによる信頼関係の再構築が必要」という趣旨の市長答弁が昨年9月の議会であったが、市民と市役所、市議会と市役所の信頼関係は揺らいだまま。ゴミ問題、市内ホテルの重油漏れ放置問題、市役所内部のガバナンス崩壊、市民のまちづくりへの関心喪失など課題は山積。市長は、初心に立ち返り、謙虚な姿勢と課題解決に向けた覚悟を持つべき。市民の生命と財産を守り、網走の未来に責任を負っているという自覚の有無と市民のために職責を担う大原則を認識しているか伺う。

答) 市民との約束をひとつひとつ実現させて頂くことが何よりも大切な事と考えている。

学校給食費の無償化を
新年度から実施すべき

日本共産党議員団 松浦 敏司



問) 学校給食費の無償化は市長選挙で双方が掲げていたが、基本的な考え方を伺う。

答) 小中学校、市立保育園、法人立保育園、幼稚園、認定保育園に通う、児童生徒、園児の保護者を対象に無償化する。これにより社会情勢等により経済的影響を受けている保護者の負担軽減になる。

問) 無償化の実施時期は選挙時は令和5年度中と言っていたが、新年度からでいいか。

答) 開始時期は小中学校をはじめとして、いずれも令和5年4月から開始する。

問) 地産地消で食育の推進が重要。地元紙に西網走漁協青年部が市内小学校に出向き漁具などを見せて特別授業をしていた。食材を地産地消に努力する必要があるが見解を。

答) 現在も地場産、道内産をはじめ取組んでいる。今年も行者菜、網走和牛、ホッケ、ホタテ、タコなど地産地消に務めている。

※他に物価高騰への対応について質問した。

スポーツ施設の在り方・
子供達の教育支援

同志会 小田部 照



問) 網走スポーツ・トレーニングフィールドは7面あるが合宿整備として全面利用させない期間が多く、シーズンの8割は芝生が傷むからと利用させていない。市民に気軽に利用してもらうのが公共施設のあるべき姿。可能な限り市民が利用できるよう見直すべき。

答) 合宿時期でも未使用面の解放、整備期間の短縮等、市民が利用できるよう協議する。

問) 少子化が進む中、支援を必要とする子供達が増加している。小学校の通級指導教室の拡充、中学校での通級支援の必要性について。

答) 潮見小での開設に向け検討中。中学校は実態に応じて学校が必要とした場合、開設に向け連携したい。

※他、老朽化している総合体育館・2つの野球場・オホーツクドームの在り方、スキー場・スケートリンクの運営、学校開放・日体大附属高校の一般開放、リモート学習の格差、網小プラス遠征対応等質問した。

4期目の水谷市政に
ついて

無会派 栗田 政男



問) 当市のふるさと納税は毎年増加しているが、近隣自治体と大きな差がある原因は何か。

答) 現在正職員1名と数名の会計年度任用職員で対応している。返礼品などの精査と体制強化に努める。

問) 4期目の水谷市政についてわかりやすく説明を。

答) 選挙を通してこれまでの活動に一定の評価がなされたと考える。公約はこれからの市政に大切なものと考え、総合計画に基づいたものであり実現に向けて努力する。

問) 重油漏れ事故は、市が直接の窓口になりホテル関係者と協議する必要があると考えるが。

答) 各方面の動向の注視と漏えいの実態の把握、漁業者が納得する形で対応する。

トピックス

重油漏れ事故対策検討
特別委員会を設置

令和4年3月、市内ホテルにおいて約8千ℓの重油が地下に漏れたことが判明。漏えいしたとされる場所からわずか100mの位置にさけ・ますふ化場、300mの位置にシジミやワカサギ、シラウオの漁場となっている網走湖があり、今後公共用水域へ油が流出した場合での水産資源への影響が懸念されている。

漁業被害が生じた場合、単年度65億円、長期的には227億円もの被害が試算されている。

市から市議会への報告は7月までされず、市の情報提供の怠慢さも指摘されている。この報告を受け市議会は9月6日に当委員会を設置し、11月8日までの計5回の委員会で経過説明を受けているが大きな進展

もなく、令和4年12月現在、ボーリング調査等を行っているものの、漏えい量の把握や漏洩した重油の現状把握には至っていない。

10月、当委員会では汚濁物撤去の行政代執行を可能とする条例案を作成し、専門家の意見などを踏まえた上で市独自の条例制定を目指すこととし、環境法に詳しい弁護士や環境法学の専門家である大学教授等とオンライン勉強会を開催した。

以下3つの可能性について議論された。

①北海道に対し、廃棄物処理法上の適切な権限行使を求める事。

②網走市環境基本条例21条には、市長は環境負荷の低減を図るために必要がある時は、それに関する事業者と協定

を締結するものとする
とあり、協定の締結を
促していく。

③網走市は市民の生活環境の保全を目的とした
具体的事案における生活
環境支障の除去を求める
措置を規定する条例を
制定することが出来る
ため、独立条例の制定
を目指す。

今後、これらを課題
解決に向けた取り組み
として検討し、一刻も
早い事態の収束に努めて
いく。



抗議活動の様子



漁組との意見交換会の様子



流出箇所周辺の位置図

議案審査結果

第6回臨時会の議決結果について（10月11日）

○全会一致で決定・可決した議案

議案第1号 令和4年度網走市一般会計補正予算

議案第2号 財産の取得について

第7回臨時会の議決結果について（11月22日）

○全会一致で決定・可決した議案

議案第1号 令和4年度網走市一般会計補正予算

議案第2号 網走市常勤の特別職に属する職員の給与に関する条例の特例に関する条例の一部を改正する条例制定について

第4回定例会の議決結果について（12月6日～12月15日）

議案と議決結果

(○:賛成 ×:反対 -:除斥)
※議長は、議決に加わりません。

志 誠 会		民主市民ネット		公明クラブ		緑の会		同志会		無所属			
近藤 憲治	立 崎 聡一	古 田 純也	金 兵 智則	平 賀 貴幸	山田 庫司郎	澤 谷 淳子	永 本 浩子	松 浦 敏司	村 椿 敏章	石 垣 直樹	小 田 部 照	工 藤 英治	栗 田 政男

○議員別議案賛否一覧表（賛否の分かれた議案）

議案第6号 網走市公の施設に係る指定管理者の指定について

○ ○ - ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

議案第7号 令和4年度網走市一般会計補正予算

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ○ ○ ○ ○

議案第12号 網走市職員給与条例等の一部を改正する条例制定について

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ○ ○ ○ ○

○全会一致で決定・可決した議案

議案第1号 令和4年度網走市一般会計補正予算

議案第10号 令和4年度網走市後期高齢者医療特別会計補正予算

議案第2号 令和4年度網走市国民健康保険特別会計補正予算

議案第11号 令和4年度網走市後期高齢者医療特別会計補正予算

議案第3号 網走市水道事業給水条例の一部を改正する条例制定について

議案第13号 網走市教育委員会委員の任命について

議案第4号 網走市中小企業振興条例の一部を改正する条例制定について

議案第14号 網走市公平委員会委員の選任について

議案第5号 網走市印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例制定について

議案第15号 網走市固定資産評価審査委員会委員の選任について

議案第8号 令和4年度網走市市有財産整備特別会計補正予算

請願第41号 学校給食費の無償化を求める請願

議案第9号 令和4年度網走市国民健康保険特別会計補正予算

議会だよりを音声でお届けします

音読や訪問朗読などの活動をしている朗読ボランティア団体「声の図書館 そよかぜ」は、平成13年から目の不自由な方やご高齢の方々のために「議会だより」を朗読したCDを作成し、御希望の方々に無償で配布されております。

CDをご希望の方は、網走市議会事務局までご連絡ください。

総務経済委員会行政視察報告

総務経済委員会は昨年10月18日から21日、3都市での視察を行いました。

札幌市では株式会社日本防災技術センターでARによる防災体験。ARゴーグルを着用し臨場感のある火災を体感し、今後の防災訓練にも非常に有効であると感じました。また、北海道議会議場の見学を行い、令和6年完成予定の新庁舎建設に向けて、有意義な視察となりました。併せて、道議会各会派の方々に油流出事故解決に向けた対応のお願いをしました。

秋田県横手市では、共助運営体ミニバン運行とデマンド交通・循環バスの取り組みについて伺いました。広大な土地の移動に対する課題とバス等利用者の減少に伴う路線の赤字と廃止から、様々な公共交通に対する取り組みを試行錯誤しており、当市における公共交通にも大いに参考となりました。

山形県天童市では、ふるさと納税の取り組みと株式会社天童木工を視察しました。ふるさと納税推進室を発足し、外部委託せずに直営で実施しており、職員の皆さんのスキルアップに取り組む姿勢に感銘を受けました。3年ぶりの行政視察でしたが、現地に赴いて学ぶ重要性を改めて実感させていただきました。



防災技術センターにて



道議会にて

文教民生委員会行政視察報告

文教民生委員会は昨年10月4日から7日までの4日間、香川県三豊市、観音寺市、愛媛県松山市を視察しました。

三豊市では「ゴミも活かせば資源」の考えのもと、生ごみやティッシュ、紙おむつなど「可燃ゴミ」を乾燥固形化し、石炭に代わる燃料にする「トンネルコンポスト」（好気性発酵乾燥方式）を日本で初めて実用化した「バイオマス資源化センターみとよ」を訪問。ゴミを5m×6m×30～35mのコンクリート製トンネルに入れ、17日間かけ微生物で有機物を分解。その際の熱（70度前後）で全体を乾燥させた上で固形化する工程を見学。ゴミ焼却炉の過大な財政負担や環境負荷を考慮し、焼却炉の新設からトンネルコンポストへ政策転換した経緯を伺ったほか、「市民の混乱を避けるために分別ルールは変更せず」「民設民営で経費抑制」「シンプルな仕組みで機械類の故障を回避」「年間1万トンのゴミが5,000トンの燃料に」「燃料は地元製紙会社のボイラーで熱源に活用」などの説明を受けました。

観音寺市では、日本国内初の乾式メタン発酵によるバイオガス利活用を調査。松山市では、人口50万人以上の都市で「市民1人あたりのゴミ排出量の少なさ」で上位（1人1日約700グラム）を維持し続けるノウハウを学びました。



三豊市での視察状況